

## 臨床研究に関する情報公開(名古屋大学用)

### 1. 研究科題名

各種骨髄疾患における versican の意義に関する研究

Significance of versican in various bone marrow diseases

### 2. 研究組織

#### ① 研究責任者 (所属・職名・氏名)

名古屋大学大学院医学系研究科医療技術学専攻病態解析学分野  
教授 長坂徹郎

#### ② 研究分担者 (所属・職名・氏名)

名古屋大学大学院医学系研究科医療技術学専攻病態解析学分野  
博士課程前期課程 松原花恵

#### ③ 共同研究者 (所属・職名・氏名)

愛知県厚生連江南厚生病院 病理診断科部長 福山隆一

### 3. 研究期間

実施承認日～2021年3月31日

### 4. 研究概要

#### (1). 目的・意義・背景

versican はアグリカンファミリーに属する大型のコンドロイチン硫酸プロテオグリカンである。細胞外基質に存在し、細胞接着や増殖、分化において重要な役割を担っていると考えられている。今回の研究では、種々の骨髄疾患における間質中の versican 産生細胞の多寡に着目して病理組織学および免疫組織化学的検討を行い、versican の骨髄疾患における役割を明らかにする。

#### (2). 研究対象

対象疾患は、急性白血病、慢性骨髄性白血病、真正多血症、本態性血小板血症、骨髄異形成症候群、正常骨髄であり、江南厚生病院において、2009年～2019年の期間に診断目的で採取されたホルマリン固定パラフィンブロックを、各 10 症例 (計 60 症例) 使用する。

#### (3). 研究方法

##### ①症例の選別

江南厚生病院のデータベースより約 60 症例をピックアップする。

##### ②組織切片標本の作製

診断の際に採取された、各種病態のホルマリン固定パラフィンブロックから切片を作成する。

##### ③病理組織学的検索

ヘマトキシリン・エオジン (HE) 染色を実施し、組織像の観察を行う。

④免疫組織学的検索

versican に対する抗体を用い、免疫組織化学染色を実施し、各種病態の骨髄間質単位面積当たりの versican 陽性細胞数を計測し、統計学的に比較検討する。

①②を江南厚生病院にて行い、③④を本学にて行う。

(4). 実施場所

名古屋大学大学院医学系研究科医療技術学専攻病態解析学分野病理研究室

5. 予測される利益・不利益

【予測される利益】

骨髄における versican の各種病態への関与を解明することにより、新たな治療法の開発につながる。

【予測される不利益】

既存試料を使用するため、対象者に新たな侵襲が生じる危険や不快は無い。また、匿名化した試料の提供により、個人情報漏洩の可能性も無い。

6. 個人情報の取り扱いについて

江南厚生病院で採取された匿名化（対応表は作成しない）試料に対し、新たに番号を付し対応表は残さないものとする。試料及び試料から得られた研究データ等の情報は、新たに付した番号でのみで扱う。これらの匿名化によって第三者及び研究者は、試料から個人を特定することは不可能であり、また、試料提供者も同様に研究結果と個人を結びつけることは困難となる。

7. 研究費用

運営費交付金及び、寄付金により研究を実施する。

8. 問い合わせ先

【研究責任者】

名古屋大学大学院医学系研究科医療技術学専攻病態解析学分野  
教授 長坂徹郎

E-mail ; nagasaka@met.nagoya-u.ac.jp

TEL ; 052-719-3152

【研究事務局】

名古屋大学大学院医学系研究科医療技術学専攻病態解析学分野  
〒461-8673

愛知県名古屋市東区大幸南 1 丁目 1-20

TEL ; 052-719-3152

【苦情の受付先】

名古屋大学大学院医学系研究科(大幸キャンパス)事務統括室 総務係  
内線:1504